

第4章 将来像実現に向けた5つの戦略

戦略1: 魅力的な仕事として継続・向上できる「プロフェッショナル農業」

- 土地利用型農業や畜産(近江牛)を筆頭に、得意な野菜や果実など(いちご、トマト等)の園芸作物を売りとしたプロ農業者が増え、儲かる農業を持続的に展開するイメージを想定します。
- また、自分の経営スタイルに合わせた観光農業や6次産業化への展開、企業による農業参入の促進など、プロ農業者をめざす人たちに選ばれるだけでなく、子どもや学生にとっても「竜王農業が魅力的な仕事の1つ」となることをめざします。
- 具体的には、魅力的な仕事として継続・向上するために、農業で生計を立てるプロフェッショナルな農業者が増えるよう、特に、土地利用型農業、畜産(近江牛)、果樹、花きなどの園芸品目等の経営者の後継者育成、新規人材育成、事業継承などを支援します。

■取組イメージ

①新規人材育成の仕組み整備(竜王農業スクールの開校)

- ・町としての統一窓口を設置し、全国公募による新規人材の確保育成。各受入先(農業者)や県農業大学校等教育機関と連携した研修体制の整備。
- ・研修生や新規就農者用の住居整備(シェアハウスの整備、民間賃貸住宅等の活用 等)
- ・事業継承のサポート(経営・経理等の専門家の派遣 等)

②スマート農業技術の導入サポート

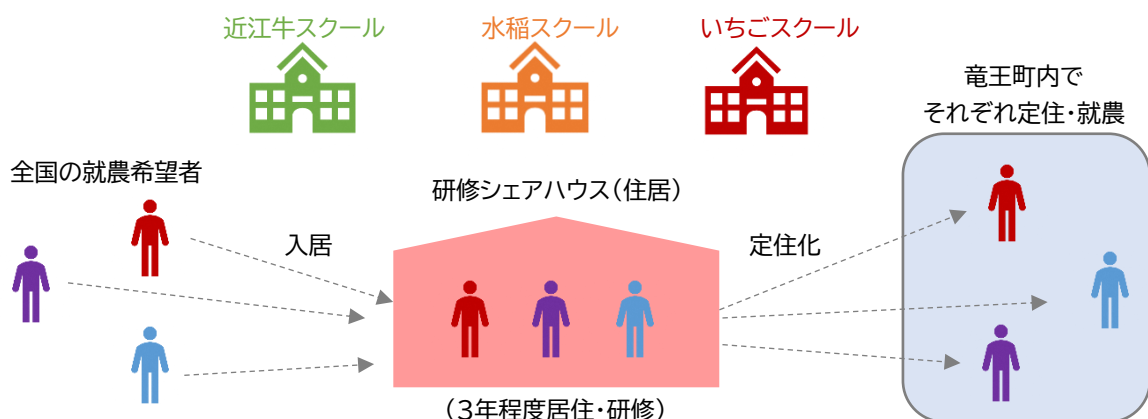
③耕畜連携の促進

- ・農家どうしのマッチング促進

④農繁期用サポート人材の育成・派遣バンク

- ・住民や町内立地企業の人材活用を想定した仕組みを構築
(例:シルバー人材センターの柔軟な活用 等)

【竜王アグリスクール(イメージ)】



戦略2: 町内外の交流を産み出す「観光・6次化農業」

- 本町農業の大きな特徴の1つは観光農園が非常に充実し、かつ集客施設も立地していることです。道の駅アグリパーク竜王周辺をはじめとする町内の観光農園全体が、より魅力的な質と量を兼ね備えたサービス産業として展開するイメージを想定します。
- 具体的には、加工品等の商品開発、直売所やネット販売の充実など、地域外にも発信・販売する地産外消や地域商社機能の強化を図り、町外からの来訪者による消費や町外への販売等も含めて、観光農業・6次産業化等をさらに発展させます。

■取組イメージ

①道の駅周辺の観光農園の質・量の充実化

- ・担い手育成、経営強化、デザイン等の充実のための研修
- ・山之上地区の構想づくり、遊休農地の活用による観光農園の充実化
(山之上農林公園構想の再構築)
- ・善光寺川横の農園の開設支援・連携

②農産物直売所の充実

- ・登録者を増やす、作付け計画や栽培支援等の充実化、町内循環の集荷・販売バスの運行

③加工品等の開発支援・販売

- ・農商工連携、名物の開発等、オンラインショップの充実 等



④集客拠点との連携強化

- ・大型商業施設(年間約400万人)、希望が丘文化公園(年間約84万人(R1)) 等

⑤地域商社機能の充実

- ・農家や集落営農法人と連携した作付け計画、出荷計画 等



戦略3:生きがいや福祉、教育など、町民の幸福度が向上する 「地消地産・健康農業」

- 兼業農家や高齢農家、小規模農家により、自家消費用農産物が栽培されており、また、非農家である町民や町内企業用に健康農園が開設されるなど、竜王農業が健康長寿、また住民の生きがいや幸福度の向上に役立つイメージを想定します。
- また、町内外の福祉施設や企業(障がい者雇用)と連携し、町内の農業法人等で農福連携が取り組まれているとともに、学校給食や社員食堂、弁当などにおいて町内産が日常的に利用されることをめざします。

■取組イメージ

①健康農園の開設・運営

- ・非農家の町民用、企業の健康経営用に「健康農園」を開設
(集落営農法人や道の駅等が運営をサポート 等)

②地消地産の仕組みの充実

- ・直売所での仕入れ品や売れ筋商品の町内での生産強化
- ・直売所の登録者を増やす、作付け計画等の充実化、町内循環の集荷・販売バスの運行
- ・町内のスーパー等との連携(地消地産)

③農福連携の推進

- ・町内農家と福祉施設・企業等とのマッチングの支援
- ・初動期の運営支援、運営マニュアル、専門家派遣 等

④学校給食・食育の充実

- ・学校給食の食材調達担当や食育担当との調整
- ・年間の使用食材の量と時期(利用計画)と町内農業のマッチング
(集落営農法人、道の駅等と連携)

⑤農村文化等の保存・継承・活用

- ・町内各集落で大切に伝承されてきた行事や文化等の保存・継承の支援
- ・行事等の継承が困難になっている地域での担い手体制の強化支援
(土地持ち非農家等との連携・協力)

戦略4: 竜王町の原風景と環境を守る「土地利用型農業」

- 竜王町の大部分の農地を占める水田は、水稻の生産機能に加えて、町民を守る環境インフラ、景観インフラを担っています。
- また、水田の担い手は、現在の集落営農法人が継続して運営している地域もあれば、そこに新しい担い手が入っている地域、あるいは、中核的な大規模水稻農家が集落の農地をまるごと栽培している地域もあります。
- 集落営農法人や大規模水稻農家などを含む、全27集落に関わることで、農業基盤整備の更新(また継続的で適正な保全管理や活用)にも関わることから、中長期視点とともに、丁寧かつ慎重に進めます。

■取組イメージ

①各集落における将来の方向性の検討支援

1)各集落における人・農地プランを含めた将来の営農の検討

<方向性の例示>

A案:現状の集落営農法人による継続・発展

・現在の事業を継承

・活性化の取組等(園芸品目栽培・販売、観光農園、市民農園 等)

B案:中核的な大規模水稻農家への移行

C案:集落で新規担い手人材を受け入れ

・例:地域おこし協力隊として受け入れ → 認定新規就農者 → 集落で受け入れ

2)町全体で検討

<方向性の例示>

A案:町全体で1つの法人

B案:地域ブロック単位で集落営農法人を集約

C案:各集落の実情に合わせて選択 等

3)実現可能な集落や特定事業から実施

②ほ場や土地改良施設の再整備

・上記の方向性を見据えながら、水利施設、大区画ほ場等の再整備のあり方を検討

③スマート農業の導入支援

・機械設備、ICT等の導入 等

④世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の推進・支援

・農地の多面的機能を維持保全し、活用を進めるために、まるごと保全対策を推進

・担い手の強化支援(地域の非農家、都市住民、事業者等の参画の支援など)

戦略5:未来社会を先導する「循環型農業」

- 世界的な大潮流の1つに「脱炭素」があり、国が描く「みどりの食料システム戦略」においても重要なテーマとなっています。
- 畜産農家の集積と土地利用型農業が特徴である竜王町では、バイオマス産業都市構想を令和4年中に策定し、畜産農家の堆肥を活用した再生エネルギー創出と実装化を図っています。これらを活かした循環型農業を町全体に広げていくよう支援します。

■取組イメージ

①畜産農家と町内の土地利用型農業の担い手が連携した耕畜連携の推進

- ・飼料作物(地消地産型のエコフィード(飼料米、WCS等))の栽培支援
- ・畜産農家から排出される堆肥の農地還元に向けた支援
- ・マッチングと仕組みの構築、初動期支援 等

②バイオマス産業都市構想の策定・推進

- ・町内企業と畜産農家、土地利用型農業者等との連携による事業推進

③有機農業の推進

- ・町内の有機農業者を核とした推進支援

④ほ場や土地改良施設の再整備

- ・ほ場の大区画化や水利施設等の再整備による効率的農業

⑤スマート農業の導入支援

- ・機械設備、ICT等の導入 等

⑥循環型農業に関わる広域連携の推進

- ・例えば、環境保全型農業を推進する全国組織等への加入